

今度は自分が助けたい

地震がおきて、私はおばあちゃんのところ
にかけよった。本当は自分がおばあちゃんの
ことを助けてあげなくちゃいけないのに、
私はこわくてこわくて助けようもしなかつた。
なのに、おばあちゃんは自分もこわいのに、
私をつくえの下にいて、守ってくれた。
私は自分のことしか考えていられたかっ
た。おばあちゃんは自分がきけんであつても、
たれかの心配をしていた。私はそんなお
ばあちゃんになろうと思つている。

地震があつてから次の日だつた。今度は予
震があつた。私はその時何も考えず自分のこ
とだけ考へていた。その時はなれていたお
ばあちゃんが私のところにきて、
「大じょうぶ、心配ないからね。」
と言つてくれた。それが私にはとてもうれし
かつた。

今度からは、おばあちゃんみたいにおばあ

ちやんこてを助けて上げたたい。今度予震があ
たときまた自分のことだけ心配しちやう
かもしれないけど、くじけないうで助けていき
たい。今度は自分が助けていきたい。